

トナカイのロメさん



What's in a name?

おおいし ゆか
大石 侑香

民博 学術資源研究開発センター



手を差し出した筆者に近寄るロメ
(撮影：タチヤーナ・モルダノヴァ、2012年)

西シベリアの森林に暮らすハンティはトナカイ牧畜と漁撈、狩猟採集を営み、日々の糧としている。彼らはトナカイを乳のためではなく、食肉と毛皮利用と橇の牽引のために飼育している。飼育といってもほとんど放し飼いの状態で、夜間は自由に行動させ、一日か数日に一回群れを集める程度である。

二〇一二年の冬、筆者は人里離れた森のなかのあるハンティの家庭に住み込みで調査をしていた。その家庭では約九〇頭のトナカイを所有していた。あるとき家主は、放牧から帰ってきたトナカイ群の一頭に向かって何度かハンティ語で「ロ〜メ〜」「ロ〜メ〜」と大きな声で言い、背中をなで、魚やパンを与えていた。「ロメ」は「静かな」や「おとなしい」という意味である。筆者は最初、家主がその個体をなだめているのだと

思ったが、後で家主に聞いてみると、それはそのトナカイの名前であつた。彼はおとなしい性格をしているためそう名づけたと教えてくれた。それ

まで、筆者には九〇頭のトナカイがすべて同じように見えていたが、そのとき初めて、飼い主は群内の各個体をはっきりと区別していることがわかった。

トナカイの名づけ方はさまざまである。そのトナカイの性格や体の特徴から名づけたり、そのトナカイを所有している人やそのトナカイを調教した人の名前からとってきたり、その仔トナカイの親の名前をそのままついたりする。しかし、すべてのトナカイに名前をつけるわけではない。親戚に贈与された特別な仔トナカイや橇を引かせるために調教したトナカイ、優秀な種オス、良い仔を産むメスなどにだけ名前をつける。かわつて、肉として利用する、つまり長く生きない去勢オスには名前をつけない。

ロメさんは去勢されたオスのトナカイだが、彼は肉畜とみなされていない。むしろ群れを先導するという重要な役目を担っている。家主は自分の好みのトナカイをただかわいがっていたのではなく、意識的に彼に餌を与えて名前を呼び、自分に馴れさせていた。こうすることで、ロメさんにこの家に来れば餌や必要な塩分がありつけるということを覚えさせ、群れが遠くに行き過ぎないように仕向けていた。広大な土地で自由度の高い放牧をおこなうこの地域では、飼い主によく馴れた先導トナカイが必要だからだ。

このように、一様に見える群れのなかにも人間と親密なトナカイとそうでないトナカイがあり、それは名前のある／なしにもあらわれている。